

令和8年度 戸坂しろやまLMO運営委員会 事業計画書

1 今年度の目標

・ 設立初年度のため、地域での認知度を高める。
・ LMOや事業周知のための広報活動を行う。

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	あかさかまつり	(7)事業中(1)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年11月14日(予定)	
(2) 実施場所	広島市立戸坂城山小学校	
(3) 参加者数	500 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 あかさかまつり実行委員会 戸坂しろやまLMO運営委員会	
4 取組内容		
同日に実施される授業参観終了後、児童が地域や保護者と交流しながら楽しく活動できる機会としてまつりを開催する。 まつり内では、アルクエスト・モルック・靴飛ばし・わたがし体験・フラワーアレンジメント・お弁当販売・消防車展示・昔遊び・車椅子、妊婦体験(昨年度実績)などのブースを設け、児童に多種多様な体験等をしてもらう。		
5 目的・効果		
(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 他人との関わりが希薄になりつつある時代に、こどもたちや保護者が地域のいろいろな世代の人たちと交流する場を提供する。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) ・ 学校の立地上、普段地域の人たちが学校の様子を見ることがあまりないので、こどもたちはどんな様子か、どんな先生がいるのか等、学校の状況を知ってもらうことで、学校運営へ協力をしてもらい、地域で子育てをする環境をつくる。 ・ こどもたち、子育て世代、地域の活動団体、高齢者等、多世代な地域住民等に参加してもらい、コミュニティの活性化を図るとともに、地域活動に興味を持ってもらい、新たな担い手づくりのきっかけとする。		

1 事業名	らくらく広場	(7)事業中(2)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	戸坂福祉センター	
(3) 参加者数	<u>200</u> 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>らくらく広場実行委員会 戸坂しろやまLMO運営委員会</u>	
4 取組内容	月1回程度、近隣の大学生がボランティアとして参加し、宿題のお手伝いや季節ごとのイベントを企画開催。スタッフが作ったカレーライスを無料で提供し、参加者の小学生と高齢者で交流をしながら食事をする。広報方法としてチラシを作成し、ためまっぷ・戸坂城山小学校・Instagramを中心に周知。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 孤食やそれぞれの家庭が抱える問題を背景に、こどもたちだけでなく、仕事や子育てに追われ他人とのつながりが希薄になりがちな保護者、独居の高齢者など、様々な世代の人が参加できる多世代交流の場として実施する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 温かい食事だけでなく、こども同士、親同士の交流やボランティアの学生、高齢者など世代を超えたつながりが持て、行ける場所があることで、それぞれに「居場所」を提供できる。	

1 事業名	盆踊り大会	(7)事業中(3)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年8月2日	
(2) 実施場所	広島市立戸坂城山小学校 グラウンド	
(3) 参加者数	1,000 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 戸坂しろやまLMO運営委員会 戸坂城山学区社会福祉協議会	
4 取組内容	多世代の地域住民同士の交流を深めるため、学区内の一大交流イベントとして開催する。 灯籠の行進から始まる盆踊りには、高齢者からこどもまで多くの住民が参加して戸坂音頭などの曲を踊り、社協やLMOの構成団体が夜店を出店する(焼きそば、ビール、わたがし、おにぎり、かき氷、ジュース、アイスクリーム等販売：前年度実績)。	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 学区内一の規模で行われる交流イベントであり、世代関係なく多数の住民が参加できる多世代交流の場として実施する。「明るくすみよいまちづくり」の推進に寄与し、灯籠行進や戸坂音頭など、地域の伝統を次世代へ継承する役割も担う事業として開催する。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 学区内で行われる事業の中で一番多く人が集まる行事であることから、多世代はもちろん同世代のコミュニケーションの場としても活用できる。限られた人ではなく、誰でも参加が可能な盆踊りを踊ることで、伝統に触れ、次世代へ繋ぐことができる。	

1 事業名	みんなでぺったん！冬のもちつき体験会	(7)事業中(4)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(1) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年12月頃(予定)	
(2) 実施場所	戸坂福祉センター	
(3) 参加者数	40 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 戸坂しろやまLMO運営委員会 戸坂城山おやじの会 戸坂城山学区青少年健全育成連絡協議会 戸坂福祉センター	
4 取組内容	地域のこどもたち(中学生以下)を対象に、今ではなかなか経験することが難しくなった日本の伝統文化である「もちつき」を体験してもらう。	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) こどもたちが日本の伝統文化である「もちつき」に直接触れる機会を提供し、杵や臼を用いた体験的な活動を通じて、五感を使った学びや協働の楽しさを実感できる場を作るとともに、地域住民や保護者との交流を促進し、世代を超えたつながりを深め、地域全体でこどもを育てる環境づくりを行う。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 現在では、実際に触れることが少なくなった伝統行事を体験することで、こどもたちの伝統文化への理解を深め、協力して一つの目的を達成することでこどもや保護者のコミュニティの活性化を促進し、地域でこどもを育てる場を創出する。 また、保護者世代に地域の活動を体験してもらい、各団体の活動を知ってもらう。	

1 事業名	こどもワクワク戸坂フェスタ	(7)事業中(5)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年8月9日	
(2) 実施場所	戸坂公民館	
(3) 参加者数	300 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>わかものボランティアクラブ実行委員会、</u> <u>戸坂地区・戸坂城山学区・東浄地区青少年健全育成連絡協議会、</u> <u>戸坂まちづくり運営委員会、戸坂しろやまLMO運営委員会</u>	
4 取組内容	戸坂3学区在住の若者及び戸坂地域に関係した若者を中心に、戸坂・戸坂城山・東浄地区青少協や地域の関係団体及び戸坂公民館で「わかものボランティアクラブ実行委員会」を設立し、戸坂3学区の小学生以下のこどもたちを対象にした「こどもワクワク戸坂フェスタ」を開催するための企画から準備、実施までを行う。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 次世代を担う若者が自ら考え、仲間とともに切磋琢磨しながら行動するという経験の場を設け、大人が作ってあげるのではなく、自分たちが「行きたい」と思える居場所を作ることで、若者同士のコミュニティの活性化、地域教育力の向上を目指すとともに、若者と地域とのつながり作りの場を提供する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 地域の若者が同じ地域のこどもたちために考え、実施することで、こどもたちだけではなく、若者たちの居場所を作り、LMOを含めた様々な地域団体が学区を超えて協力することで3学区全体でのコミュニティの活性化を図るとともに、参加した人たちへ協力している各団体の活動を知ってもらう。	

1 事業名	高齢者にこにこ体操 I T 教室	(7)事業中(6)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	広島第一病院 交流スペース	
(3) 参加者数	250 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 戸坂南2丁目町内会 戸坂しろやま LMO 運営委員会	
4 取組内容	週に2～3回、100歳体操（脳トレ含）と認知症カフェ、スマホ教室を広島第一病院の地域交流スペースを借りて開催する。100歳体操では、年に1回包括支援センターと広島第一病院の作業療法士協力のもと、体力測定を行う。年に数回、体操後に認知症カフェを開催し、参加者同士の交流の他に、落語家を呼ぶなどのイベントも行う。スマホ教室は、比治山大学から教授と学生数人に講師として来てもらい、緊急時の連絡手段や見守りなど生活に役立つアプリ等の導入の仕方や防災情報の活用法などについて学ぶ。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 100歳体操や脳トレを行うことで、転倒予防や筋力維持、脳の活性化や認知症予防となることで、介護予防や生活の自立を支え、外出する理由となる居場所（孤立防止）を創出する。また、災害時の情報収集や行政手続き、病院予約や交通情報などがスマホ前提になりつつある現状の中、高齢者のデジタル活用支援を行うことで生活の利便性を高め、安否確認や防災などの情報取得による安全面の向上、並びに地域コミュニティの活性化や地域全体の情報共有力向上を図る。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 高齢者対象の教室を定期的で開催し、気軽に行ける場所を創出することで、孤立防止や閉じこもり予防につながる。また、継続して通うことで生活リズムも整い、参加者同士のコミュニティが育ち、地域の見守り力も向上する。	

1 事業名	ガードボランティアジャンパー製作	(7)事業中(7)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(9) 地域の防犯に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	戸坂城山学区全域	
(3) 参加者数	40 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 戸坂城山学区防犯組合 戸坂しろやまLMO運営委員会	
4 取組内容	地域のこどもたちの登下校見守り時に着用するジャンパーを製作・配付する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 小学校前の道路が常時より交通量が多く、また隣接して私立の認定こども園・中学校・高等学校があり、道が複雑な形状になっているため、小学校前や通学路に立って登下校を見守るガードボランティアに目立つ色のジャンパーを配付・着用してもらい、視界に入りやすく、どのような時間帯でも確認しやすくすることで、こどもたちだけでなく、ガードボランティアの安全面向上を図る。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） - こどもたちやガードボランティアの安全と交通事故防止力が向上する。 - 目立つ色のジャンパーを着ることで、こどもたちが有事の際に助けてくれる大人、安心できる存在として判断するための目印になる。 - 周囲から目立つため、不審者に「見られている」と意識させる効果もあり、地域全体への犯罪抑止力が高まる。	

3 自主財源で実施する事業

年月日	事業名	特定地域共同活動の分類	取組内容
	なし		